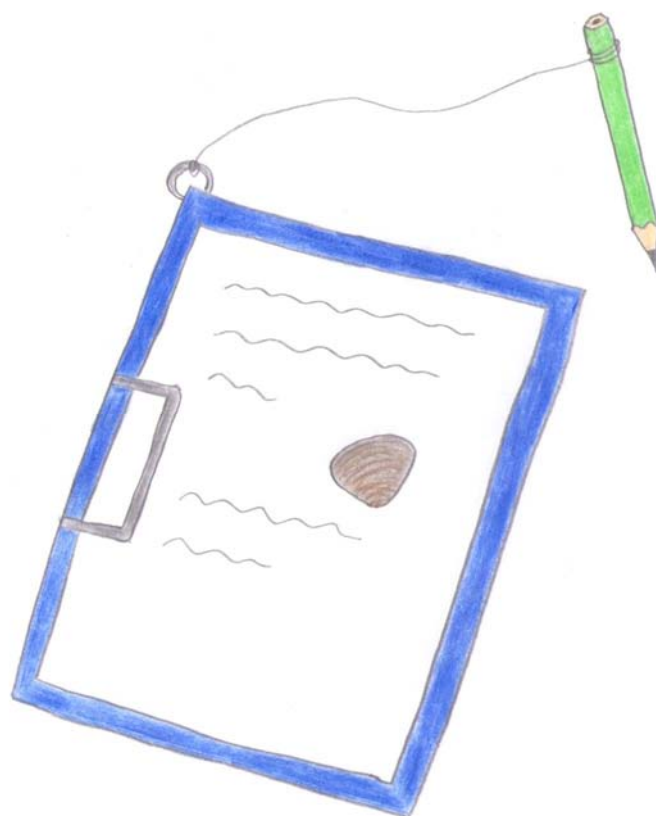


5. 資料編

実際の調査時には、調査の責任者が本調査マニュアルをけい帯し、その他の調査員は「調査記録シート」か「簡易調査シート」のページのみを持って観察を行うのが便利です。



調査記録シート

調査日	年 月 日
調査地	県 市・郡 町
* 位置情報をお持ちであれば 記述してください	海岸名など ()
	緯度 ()
	経度 ()
調査時間	: ~ :
干潮時刻と潮位	: (cm)

観察者・記録者の氏名
調査を行った団体・グループ名など
参加者人数 (名)

指標生物 (20種類)	指標 点数	チェック (観察種に○)	生物量 (いずれかに○)
ケガキ	20		10・5・1
アオガイ	19		10・5・1
ムラサキインコ	18		10・5・1
クロフジツボ	17		10・5・1
カメノテ	16		10・5・1
イシゲ	15		10・5・1
マツバガイ	14		10・5・1
ウミトラノオ	13		10・5・1
ヒジキ	12		10・5・1
ヨメガカサ	11		10・5・1
ウノアシガイ	10		10・5・1
オオヒガイ	9		10・5・1
ヒザラガイ	8		10・5・1
イボニシ	7		10・5・1
アナアオサ	6		10・5・1
タテジマイソギンチャク	5		10・5・1
ムラサキガイ	4		10・5・1
マガキ	3		10・5・1
シロスジフジツボ	2		10・5・1
タテジマフジツボ	1		10・5・1
観察種数 N (○の数)			生物環境の評価点 (○をつけた合計点)
観察種の指標点数の合計 T			
平均点 (T÷N)			
水質の評価点 (平均点×8)			

その他 観察された生物	生物量 (10・5・1点)

＜水質の評価＞	判定
A 大変きれいな海 100点以上	
B きれいな海 75~99点	
C ややよごれた海 50~74点	
D よごれた海 49点以下	

＜生物環境の評価＞	判定
A 大変豊か 80点以上	
B 豊か 60~79点	
C ややとぼしい 40~59点	
D とぼしい 39点以下	

気付いた点など

簡易調査シート

指標生物 (20種類)

- * 観察できた生物は () にチェック
 * 生物量に○を 10点：ひじょうに多い
 5点：あまり多くない/少ない
 1点：ごくわずか

ケガキ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 上部～中部 	アオガイ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 下部 	ムラサキインコ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部～下部 	クロフジツボ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部 
カメノテ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 上部～中部 	イシゲ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部 	マツバガイ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 上部～中部 	ウミトラノオ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部～下部 
ヒジキ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 下部 	ヨメガカサ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部～下部 	ウノアシガイ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部 	オオヘビガイ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部～下部 
ヒザラガイ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 上部～中部 	イボニシ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部～下部 	アナアオサ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 下部 	タテジマイソギンチャク () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 中部～下部 
ムラサキイガイ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 全体 	マガキ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 全体 	シロスジフジツボ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 上部～中部 	タテジマフジツボ () 生物量 (10・5・1) 潮間帯 上部～中部 

磯生物の観察について参考になるハンドブックなど

<動物の観察>

磯の生き物図鑑

今原幸光 編著，トンボ出版

海辺の生物 カラー自然ガイド（17）

西村三郎・山本虎夫 共著，保育社

海辺の生きもの 山溪フィールドブックス3

奥谷喬司 編著／楚山勇 写真，山と溪谷社

大阪湾の磯の貝 ミニガイドNo.11

大阪市立自然史博物館

大阪湾の磯の甲殻類 ミニガイドNo.14

大阪市立自然史博物館

大阪湾の磯の動物 ミニガイドNo.15

大阪市立自然史博物館

干潟に棲む動物たち ミニガイドNo.17

大阪市立自然史博物館

瀬戸内圏の干潟生物ハンドブック

香川大学瀬戸内圏研究センター編，恒星社厚生閣

<海藻の観察>

ネイチャーウォッチングガイドブック 海藻

神谷充伸 監修／阿部秀樹 写真／野田三千代 おしば，

誠文堂新光社

日本の海藻 基本284

田中次郎 解説／中村庸夫 写真，平凡社

調査や情報収集について参考になるホームページ

気象庁のホームページ

観測日の干潮時間や潮位を調べることができます

<http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/db/tide/suisan/index.php>

週間天気予報

<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

環境省のホームページ

調査地に近い海の水質（広域総合水質調査や公共用水域水質調査の測定結果など）が公開されています

<https://www2.env.go.jp/water-pub/mizu-site/>

せとうちネット（環境省のホームページから）

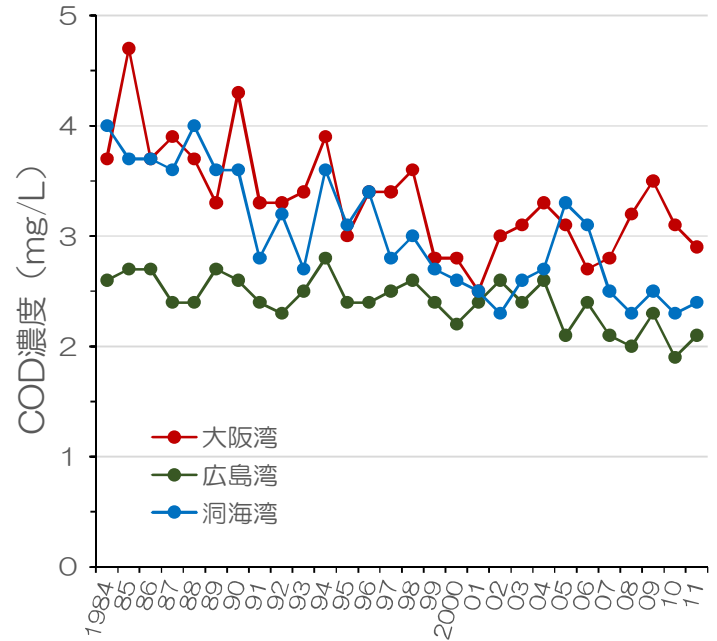
瀬戸内海の情報を得ることができます

http://www.env.go.jp/water/heisa/heisa_net/setouchiNet/seto/index.html

6. あとがき

磯の生き物を観察した感想はいかがでしたか？たくさんの生き物に出会いましたか？

海とかかわる第一歩は『海にふれること』です。海にふれ、海に親しむことで海のすばらしさを体感し、海に興味を持ち、海から受けている様々な恩けいに気づき、海の大切さを理解して初めて、海を保全するために何かできないかという発想が生まれてきます。



瀬戸内海沿岸のCOD濃度の変化（環境省）

右上のグラフは、大阪湾、広島湾、北九州洞海湾の海水中のCOD濃度の変化を示したものです。特によごれがひどかった海域を中心に、現在の瀬戸内海は、だんだんきれいになってきていることがわかります。海岸にすんでいる生き物は、このような水質の変化に対してびん感に反応します。以前のもっと海がよごれていたところにすんでいた生物たちは、現在と様子がちがっていたでしょうし、これからも変わっていくでしょう。

近年、「里海（人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域）」という考え方が提唱されています。里海づくりは、現在の海の状況をあくして順応的に活動を行っていくことが大切であり、そのためにも、けい続的なモニタリングは大変重要です。

このマニュアルを使って、「同じ場所を長い間見続ける」ことで、瀬戸内海の現状をはあくし、多くの人々が瀬戸内海の里海化のために様々な活動に参画するきっかけになることを願っています。

瀬戸内海の海岸生物調査マニュアル 平成26年3月

瀬戸内海環境保全知事・市長会議

「住民との協働によるモニタリング体制の実現に向けた手法検討ワーキング」

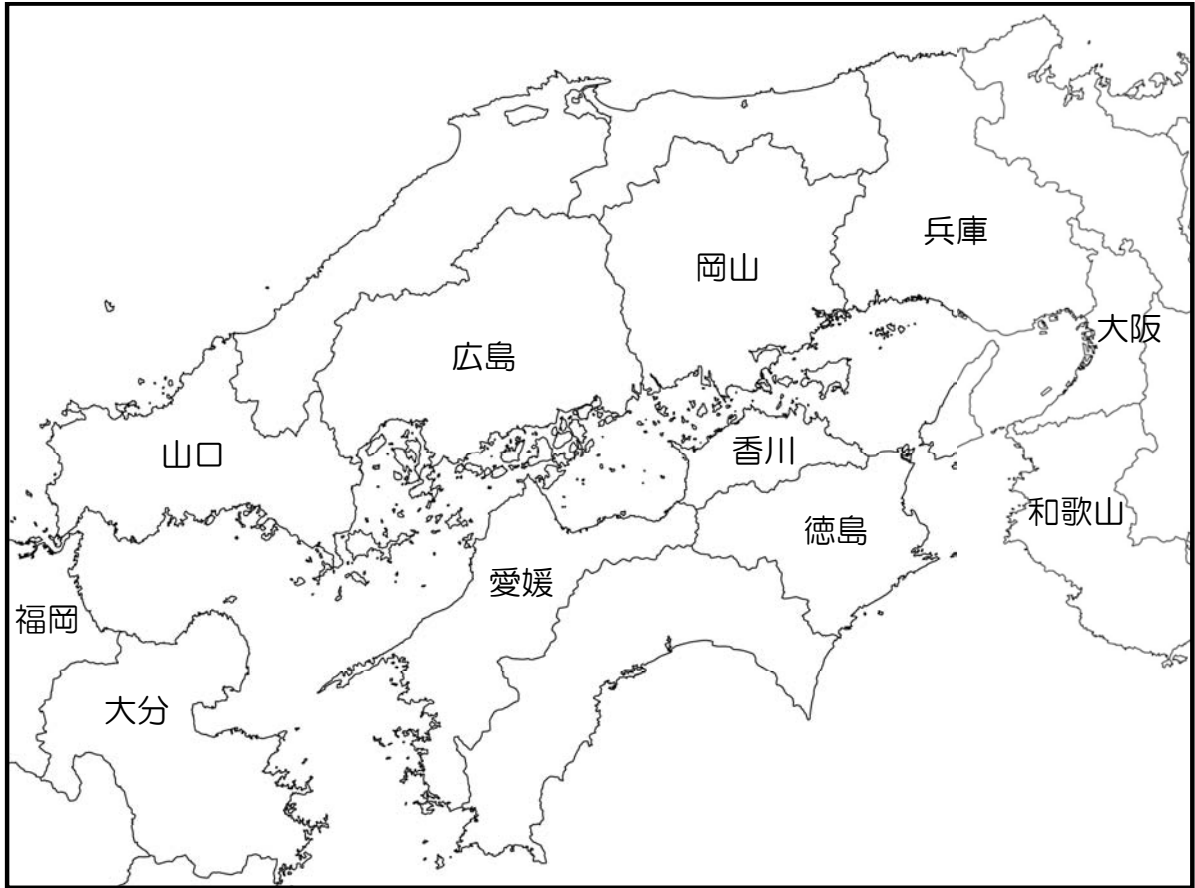
（事務局）広島県環境保全課

大阪府環境保全課、兵庫県水大気課、岡山県農林水産総合センター、山口県水産研究センター
香川県環境管理課、大分県環境保全課、大阪市環境管理課、北九州市環境保全課、福山市環境保全課、松山市環境指導課

瀬戸内海研究会議

（研究担当）香川大学瀬戸内圏研究センター准教授 一見和彦

瀬戸内海の海岸生物調査マニュアル



住民との協働によるモニタリング体制
の実現に向けた手法検討ワーキング